

## 令和5年度 第3回学校運営協議会・学校関係者評価委員会議事録

1 日 時 令和6年2月8日(木) 午後2時から4時まで

2 場 所 静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校  
(松崎高等学校会議室)

### 3 参加者

#### ○学校運営協議会委員

石田 博之 様 松崎町文化協会会長  
菜野 倫克 様 松崎町桜田地区区長  
鈴木 久美子 様 障害者就業・生活支援センター「わ」職員  
鈴木 茂孝 様 とんび農園代表  
西島 卓 様 伊豆松崎分校 PTA 会長

#### ○教職員

校 長 松本 仁美 (オンライン)  
教 頭 所 宗子  
部主事 藤井 あや子  
教務主任 高橋 康子

### 4 内 容

(1) 授業参観「保健体育」

(2) 議題

- ・生徒の進路状況(部主事より)
- ・学校自己評価の結果報告と次年度に向けて
- ・学校関係者評価について
- ・来年度の取組「令和6年度学校経営計画(案)」(校長より)

### 5 議事録

#### 校長挨拶

本校では感染症が流行し欠席者も多くいる中、伊豆松崎分校では顔を合わせて学校運営協議会ができることをありがたく思う。

教育内容が変化している。小さな子供でもパソコンやタブレットなど当たり前前に使い、ますます ICT 化が進んでいく。県内の高等学校ではすでに ICT 機器を活用した授業を行い効果を上げている。特別支援学校高等部でも、来

年度から一人一台端末活用が推進される。社会の変化の先を見据えていくことが求められる。

#### 令和5年度学校自己評価・保護者アンケート・生徒アンケートについて

- 委員 ・松崎高校との交流では、分校生に声を掛けにくいのではないかと。自分で伝えることができるとういが、難しさもある。会話のきっかけになるよう、名前や得意なことなどを書いたボードを持つなどしてはどうか。
- 教頭 ・12月に行った合同球技大会では「ボッチャ」を分校主催で行った。松崎高校チームと分校チームが対戦しあい、会話を楽しみ声をかけ合う姿も見られた。名札を付け名前で呼び合えるようにしたことで声を掛けやすい状況であった。
- 委員 ・避難訓練について、参加型であった。松崎町では災害ボランティアセンターを来年度初めに立ち上げる予定。学校活動に影響が出ない形で活動に参加してほしい。
- 委員 ・ボッチャの道具を社協で購入した。今では介護施設4か所でボッチャを行っている。夏休みには寺子屋でもボッチャを行い、子供と高齢者が混ざりながらボッチャを夢中になってやっていた。4月から町内の体育協会と連携してボッチャを広めていく動きがある。分校とも一緒にできないかと思っている。
- 教頭 ・学校運営協議会第2回を受けて、来年度は地域との防災学習を企画している。学校にいる間に災害が起これば取り残される地域であることから、避難場所での過ごし方、生活について知る機会にしたい。
- 委員 ・トイレが洋式であると、断水時にビニールをかけ薬を入れて使用ができる。炊き出し訓練も地域とできないか。
- 委員 ・やはり日頃からいろいろな所とつながっていることが大切。能登半島地震では福祉避難所が機能していないことや、東日本大震災では障害のある方が避難できなかったという事例もある。安心して避難するために「個別の避難計画」を立てておくとうい。普段から安心できる場所、人を増やしておくとうい。
- 委員 ・前回の学校運営協議会で話題に上がった、路線バスでの通学移動中の避難場所や、保護者や学校への連絡方法など会社（東海バス）の会議でも話題に上げている。
- ・学校での避難は分かっているようだが、家での避難について心配

- している。留守番しているときに自分で避難行動がとれるのか。
- 教頭
- ・登下校や家での避難は保護者対応である。避難行動の確認のきっかけ作りに、来年度の参観日に防災学習をあてる計画もある。
  - ・地域での学習を多く行っており、目的や内容の見直しをしていくところである。内容は清掃や花壇の整備等が多い。いろいろな仕事を経験することも大切と考えている。
- 委員
- ・お菓子の材料や色等のアイデアを考え、販売するのはどうか。考えたものが形になり買ってもらえたら自己肯定感が高まるのではないか。
- 委員
- ・校訓にもあるが地域に出たくても徒歩で移動するには活動が制限される。移動にマイクロバスなどを使えないか。協力してくれるところがあるとよい。
- 教頭
- ・来年度は沼津で行われるキャリア教育スクールへの参加を計画している。同年代の子どもたち同士での関わりや考えに直接触れることのできる貴重な機会。貸し切りバスを使う予定である。前泊して行きたいがお金もかかる。
- 委員
- ・学校の不祥事が多くなっている。施設の評議委員会でも、介護職員による虐待やセクハラの問題があがる。結局個人で抱え込み人に相談できず横とのつながりもないことが原因に考えられる。学校では多くの研修や指導體制、ミーティングをしながら支え合い所属意識がある。信頼していいところではないかと思う。
- 委員
- ・進路先で困りセンターに相談に来る方の多くは、生活習慣の乱れ、指摘されたことによる気分の落ち込みや我慢ができないといった内容である。それらが離職につながる原因となっている。失敗を次につなげる習慣にしたい。
- 校長
- ・お互いを知ることが大事。何をすればよいのか、何ができるのかを知恵を出し合い具体的に考え次年度の取組に生かすことが運営協議会の目的。
  - ・通学は保護者の責任。登下校や家でのことは親子で話し合い確認する。
  - ・松崎や下田は刺激が少ない。キャリア教育スクールでは、各校の生徒がグループに分かれ進路や職場実習について意見交換ができる。刺激を受けそこから自己理解や他者理解を深める。
  - ・高等部にできることを考える。小学校、中学校、特別支援学級との関わりや、町に出ることで町を元気にする。
- 委員
- ・食育では、うちの田んぼを自由に使ってほしい。

- 委員 ・ 何度か PTA 関係会議に出席し、規模の大きな学校を見学する機会があった。分校の良いところもあるが多くの友達と関わり仲良くなったり刺激し合ったりできることも感じた。本校と交流する機会をもちたい。保護者も他の学校を知ると視野が広がり惹かれるところもあると思う。
- 校長 ・ キャリア教育スクールに参加する際に本校交流もできるとよい。いろいろ考えているが、本校に来るにしてもお金がかかる。いいアイデアがあったら紹介してほしい。夏の PTA 研修会ではぜひ本校見学に来てほしい。
- 委員 ・ 計画的に積み立てができるとういのではないか。
- 教頭 ・ 来年度は、PTA 総会で「進路に関する校外学習」として目的を説明し集金を願います。次年度以降は積み立てしていけるように検討する予定。

### (3) まとめ

本校には多くの来校者がおり、学校参観と話合いの場をもっている。学校と企業や地域が一緒になって町の活性化や元気よくいられる取り組みを考えている。賀茂地区にも企業と連携できる何かを本気で考えているところである。これからも地域のみなさんと共同しながら、地域の活性化に向けた取り組みや学校を元気にしていきたいと思う。

一年間ありがとうございました。